

(8) 3歳6か月のころ

●筋肉も発達し、バランスもとれてきます。手先も器用になる。

- ・ボール投げやケンケンができる。
- ・三輪車やブランコに乗れる。
- ・はしやハサミも使える。

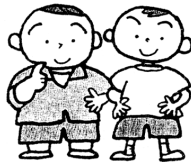
●危険がいっぱい！

交通事故には注意が必要です。日頃から信号や右側通行などの交通ルールを、実際の道路でしっかり教えることが大切です。また、好奇心いっぱいの子どもは、親が目を離れたすきにすぐどこかへ行ってしまいます。何があっても、子どもから目や手を離さず、絶対に一人にさせないことが安全の鉄則です。

●他のこどもと比べないでね！

この時期になると、「よその子と比べてうちの子は…」なんて、ママのぼやきが多くなるんだよね。悲しいなあ。(ボクはボクでがんばってるんだけどなあ。)

ボクはママやパパにほめられるとうれしくて、自信を持っているんなことに挑戦していけるんだ。



早寝早起き

外遊びを十分して体験や経験を積まないといけないんだ。そのためには、昼間の活動時間が十分にあることが大事なんだ。だから、夜8時から9時までには、布団に寝かせてほしいんだ。そしたら、翌朝、6時か7時くらいには自然に目が覚めるんだ。よろしくね！



身辺自立について・・・

ママが手を貸しちゃうと、いつまでもひとりじゃできないし、かといって、「早くして」と言われると困っちゃうんだ。例えば、着替えは、まず、なるべく脱ぎ着しやすい服を準備してね。(前ボタンや伸び縮みする素材など)そして、せかさず、手を出さず、気長につきあってほしいんだ。最初から上手にはできないもの・・・



待っててあげるから
ゆっくり着てね！

●引っ込み思案になる3歳児

「大きいー小さい」などの対比関係がわかってくると、それは友達と自分の力関係を感じてしまう力にもなってしまいます。さらに、大人に見つめられている自分がわかり、ついつい引っ込み思案になってしまいます。これも、「できるーできない」に過敏になり、「できない自分」「友達より下手な自分」を感じ始めるからなのです。

ボクのせつない気持ちをわかって!!

「強くなりたい!大きくなりたい!」と、がんばろうとする気持ちはあるけど、「本当になれるんだろうか」と悩み、葛藤するのがこの頃のボクなんだ。そんな時、ママに、しっかりすること、がんばることを押しつけられたりしたら、「いやっ」「ママのアホっ!」なんて反抗したくなっちゃうんだ。こんなボクのことを「お兄ちゃんになったね」と認めてもらえることで、この心の葛藤を乗り越えていけるんだ。

◆ 3歳頃の困りごと・・・

左きき

現在の社会が右きき優先なので、お母さんとしては気になるかもしれませんが、両方使えたら便利というくらいの気持ちで、右手も使えるように援助してあげましょう。

性器いじり

この時期の性器いじりがエスカレートして、不自然な性行為に発展することはありません。一時的なものですから、悪いこととして禁止しないようにしましょう。気持ちの安定を大切に、一緒に遊んであげるなどして、注意を他に向けてあげてください。

夜泣き

昼間の生活に緊張感が強いことに原因がある場合があります。お子さんの生活をふりかえり、原因がある場合は、取り除いてあげましょう。寝る前に、親子でゆっくり静かな時間を過ごすなど、心の安定をはかるなどして、注意を他に向けてあげてください。

びくびくする
不安がる
いい子すぎる

禁止や命令が多くなったり「いい子ね」を連発していませんか。親の管理的な関わり方が子どもにあらわれてくる時期です。危険なこと、人に迷惑なこと以外は、のびのびと何でもやらせ、自信をつけさせましょう。

どもり
発音が不明瞭

この年齢のどもりは必ずなおるといわれます。楽観的に考えて言い直しや訂正はさけ、子どもが伝えようとしている心の内容の方に目を向け、温かく受け答えしてあげることが大切です。発音については、舌や口の周りの筋肉が成熟し発音がしっかりしてくるのは、6～7歳といわれます。全身の筋肉を使うような遊びや食事をよくかんで食べることなどに、気を配りましょう。

心のつえ

指しゃぶりをしたり、お気に入りのお人形やタオルを「心のつえ」にして、子どもは気持ちの安定をはかっています。無理に離そうとすれば、心が不安定になったりする場合があります。もともと幼児期の終わりには、ほとんどなくなりますので、あまり神経質にならないようにお母さんの愛情をいっぱいそそいで、安心感を与えてください。例えば子どもの好きな遊びを一緒に楽しむ、絵本を読んであげる、散歩を楽しむ、お母さんを求めてきた時できるだけ向き合う、抱っこする、など。

★ 子どもさんの悩み事 Q & A

Q 耳の聞こえが悪いような気がしますが大丈夫でしょうか？

A 3歳児健診で聴力検査のアンケートがあります。幼児期最後の健診で最終チェックになります。日頃より、右側、左側での聞こえの反応が違ったりしませんか？
テレビの音を極端に大きくしたり、小さい音への反応がないときには3歳児健診の時に相談してください。

Q 目つきが悪いのですが視力が悪いのですか？

A 聴力検査同様、視力検査も3歳児健診で確認をしていただきます。両目とも視力が弱ければ、早く気づくことがほとんどですが、片方の目のみが弱い場合は気づかずにすごすことがあります。テレビを近くでみたり、目を細めてみたり、目つきが悪かったりなど、気になる場合は3歳児健診の時に相談してください。

Q 夜遅くまで起きていますが、かまいませんか？

A 昼寝をする時間などによって夜寝る時間はかわってきます。また、親の生活のリズムも影響しますので、子どもの寝る雰囲気を作ってあげてください。そのためには、眠る前に、絵本を読んであげるとか、歌をうたってあげるなど安心して眠りにつけるように援助してあげてください。

Q 夜、おむつがまだはずれないのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A 睡眠中は排尿をコントロールする神経中枢も休みがちになり、おもらしをします。この時期にはよくあることです。心配せず、しなかつたらほめてあげましょう。夜中に起こしてまで排尿させる必要はありません。「叱らない、怒らない、起こさない」が原則です。

Q 1日中母親のそばにいます。甘えん坊で困ります。

A 子どもが甘えてくるのなら、温かく受け止めて、愛されているという実感を持たせましょう。そのうち、親が抱っこしたいと思っても、「赤ちゃんじゃない」といって、抱っこもさせてくれないようになります。今のうちだと思って、心ゆくまで甘えさせてください。でも、もしそれがお母さんにとって精神的に負担で、やりきれないと感じたら、保健師に相談してください。



Q 朝から晩まで子どもに「早くしなさい」と、言い続けてしまいます。食事やおしっこ、出かける前の用意など、子どもをせかしてガミガミ言っている自分に嫌気がさします。

A 子どもは思い通りになりません。子どもがお母さんの速度に合わせることは難しいことです。だからといって、手出しや口出しばかりでは、子どものためになりません。とにかく待つことです。待つことはお母さんの我慢ではなく、楽しい発見だと思えたらいいですね。

Q 弟や友達にすぐ乱暴してしまい、困っています。

A 自我が芽生えると、自分の要求を何がなんでも押し通そうとするため、乱暴をすることがあります。乱暴は心の表現です。そんな時は、子どもをすぐに叱らないで、「ママはとても悲しい」と親の気持ちをまず伝えます。そして、「もしも自分がそうされたらどうかな？」と聞いて、相手の立場になって考えさせることも大切です。また、不満が積もっているということも考えられます。心当たりはないか考えてみると、危険なことやけがの心配がなければ、静かに見守りましょう。

※ 3歳児健康診査について

3歳児健康診査には、目と耳の検査もあります。

「目と耳のアンケート及び聴覚自己検査（3歳児健康診査）」の表裏に必要事項を記入して『3歳児健康診査問診票』と一緒に持参して下さい。

